

シンガポールポリテクニク語学研修の開拓と実施

三留規誉、根岸可奈子、原洋介、仙波伸也、伊藤直樹、小林澄江

Development and Implementation of English Learning Program at Singapore Polytechnic

Noriyo MITOME, Kanako NEGISHI, Yosuke HARA,
Shinya SENBA, Naoki ITO, Sumie KOBAYASHI

Abstract: There has been a growing feeling within the National Institute of Technology that students need to improve their foreign language ability due to the globalization of society. In particular, students are expected to develop their speaking skills in English, such as making presentations and discussing a wide range of topics in class. For this purpose, an increasing number of colleges have entered into academic partnership with universities overseas, encouraging students to study foreign language there. This paper reports on the four-week English language program that was originally developed for our students at Singapore Polytechnic from 26 August to 24 September 2016. This program has provided group work and experiential tours so that our students can strengthen their confidence in overcoming the language barrier. The students had several opportunities to give presentations in the lectures. To evaluate the effectiveness of the program and gather suggestions for improvement, we conducted a questionnaire with the participants. Almost all of the students were satisfied with the program. In view of the encouraging feedback, we consider this program effective in motivating students to learn English.

Key words: english for specific purposes (ESP), english for general purposes (EGP), overseas training, active learning, intercultural understanding, student exchange

はじめに

九州・沖縄地区 10 高専とシンガポールのポリテクニクの 3 校（リパブリック、シンガポール、テマセク）は 2005 年に学術交流協定を結び、その後 2009 年に高専機構と 3 校のポリテクニクは学術交流協定を締結した。高専機構とシンガポールのポリテクニクは、教員の派遣、学生の研究室への派遣、シンガポールからの受け入れ、語学研修の交流を行っている。

シンガポールポリテクニクとは、熊本高専の交流が長く、津山高専も交流がある。2015 年に津山高専が 2 週間の語学研修を広く中国地区の高専に募集したところ、宇部高専からは、20 名に参加者がおり¹⁾、宇部高専生の国際交流や語学への関心が強いことが分かる。

2015 年宇部高専は、大学教育再生加速プログラム (AP) の長期学外インターンシップに採択された。このプログラムでは、ギャップイヤーを導入して、長期の学外学修を促進する

プログラムである¹⁾。

宇部高専のグローバル化に対応するために、低学年のうちに語学研修のプログラムを導入する必要がある。そこで、1 年生から参加できる 4 週間の語学研修プログラムを実施することにした。1 年生が参加する語学研修プログラムは宇部高専としては初めてである。

プログラムの開拓

2015 年の津山高専主催の中国地区サマーキャンプ in シンガポールでは、シンガポールポリテクニクの Business Communication Centre に中国地区から 40 人、そのうち宇部高専から 20 人の学生が参加した。宇部高専学生の要望および AP に対応するために、ナンヤンポリテクニクでの在外期間中に根岸先生、伊藤先生、三留が 2015 年の 10 月 15 日にシンガポールポリテクニクを訪問し、宇部高専の 4 週間の語学研修プログラムの開発についての交渉を行なった。Business Communication Centre の Wong Hong YI 先生、Wong Wei Yuet 先生と話し合った結果、2016 年度の 8-9 月で 4 週間、最大 20 人、Wong Wei Yuet 先生が担当で学生を受け入れ

(2017 年 1 月 6 日受理)

*宇部工業高等専門学校

てもらったことになった。プログラムでは、英語の集中講義、現地学生との交流、工場見学、歴史文化施設の見学、プロジェクトを決めてグループワークと発表を行うものである。シンガポールポリテクニクとの間の期間の調整は、根岸先生が中心になって対応した。シンガポールの観光ビザが 30 日の期限となっている。この期間内で、日程を調整した。その結果、2016 年 8 月 26 日(土)から 9 月 24 日(土)の期間で研修を行うことになった。また、仙波先生が中心に宿舎の下見、周辺施設、シンガポールポリテクニクの経路の調査を行った。その結果、ナンヤンガールズスクールのゲストルームが勉強環境が整っていて、比較的安価で宿泊できると考え、こちらに宿泊することにした。

募集

宇部高専の本科生を対象として、募集を行った。1 年生の夏から海外研修ができるプログラムは宇部高専としては、初めてである。新入生も参加できるプログラムであるので、入学手続き説明会の中で保護者向けの説明と、1~3 年生向けに合同 HR で海外研修の魅力について、説明会を行った。その結果、1 年生の参加者が最も多く 10 名、2 年生 5 名、3 年生 4 名の参加があった。

事前教育の実施

6 月に第 1 回、7 月に第 2 回、8 月に第 3 回の海外研修オリエンテーションを実施した。

第 1 回目は、他のプログラムと合同で実施し、研修内容と引率教員の紹介、海外研修の意義、パスポートの準備、自己紹介カードの作成を指導した。自己紹介カードは、自分の趣味や特技、研修に向けての抱負を書かせることで、現地で自己紹介をすることになった場合に話すことができるように促すものである。オリエンテーションの中で、この自己紹介カードを英語で作成して発表することを課した。

第 2 回目のオリエンテーションでは、旅行中のトラブル対策と危機管理についての説明をした。ニューカッスル大学(オーストラリア)のプログラムと同時に開催し、シンガポールとシンガポールポリテクニクの説明、ニューカッスル大学から研修で訪問に来ていた学生によるニューカッスル大学の紹介をした。語学力の必要性を認識させ、週に 2 回開催しているイングリッシュカフェへの参加を促した。渡航前安全学習として、高専機構統一のブラックボードを利用して E-learning の受講を指示した。

第 3 回目のオリエンテーションでは、英語による自己紹介を実施し、研修中に行うテーマの紹介とグループ分けを行った。宿舎となるナンヤンガールズスクールの使用上の注意を説明した。これは、英語で記述されており、自分で読むように指示しても低学年の学生にとっては、語学力不足で十分に読解できない恐れがある。現地で利用するタブレットと、研

修のしおりを配布した。

連絡手段の確保

タブレット(モバイルWifi)を全学生に貸与している。現地で SIM カードを購入し、現地の電話番号を取得させた。連絡手段として常にタブレットを持ち歩くように指導した。

情報伝達ができるように事前に Facebook, LINE のアカウントの交換を行い、日々の安否確認は LINE でレポートの提出はメールと Facebook で行った。学生たちには英語でのレポートを義務づけ、facebook 上で教員や参加学生、シンガポールポリテクニクの教員にコメントをしてもらった。

語学研修プログラムの実施

山口宇部空港に集合し、引率教員がシンガポールの宿舎まで学生たちの引率を行う。山口宇部空港での団体チェックインした後、山口宇部空港から羽田空港へ航空機で移動した。羽田空港で国際線に乗り継ぎ、チャンギ国際空港まで移動した。チャンギ国際空港では両替、SIM カードの購入を行い、送迎バスにより、ナンヤンガールズスクールの寮まで移動した。

ナンヤンガールズスクールの寮では、まず、食事をした後、寮の使用についてのガイダンスを受けた。夜の点呼の時間は夜 9:00 に定め、ロビーに集合して、点呼を行いグループ LINE で報告することにした。

点呼の報告は、2-3 年生の学生が日替わりで行うことにした。点呼報告とは別に、全ての学生が日替わりで、日々の活動報告を英語で電子メールと Facebook に報告することにした。Facebook での報告にすることにより、研修参加者とシンガポールポリテクニクの授業担当者が閲覧し、コメントができるため、報告書を丁寧に書くモチベーションアップにつながった。

2 日目(日曜日)は、引率教員が周辺施設の案内と現地との交通手段の案内を行った。最寄りのコンビニエンスストア、スーパーマーケット、フードコート、バス停、MRT の駅、シンガポールポリテクニクまでの経路確認、シンガポールポリテクニクでの集合写真の撮影、ショッピングモールの案内、帰りのバスのバスターミナルとバスの番号を案内した。昼食以降は、自由時間にして、各自が生活に必要なものを購入して、バスを利用して、帰るように指示した。

3 日目(月曜日)から語学研修の授業を開始した。引率教員も午前中の授業に参加して、このプログラムで行う授業を体験した。その後、シンガポールポリテクニクの語学担当教員と打合せを行った。13:00 から、ナンヤンポリテクニクで研修を行っている専攻科生とともに 9 月 7 日に行うシンガポールポリテクニクのラボツアー担当教員と打合せを行った。その後、早稲田バイオサイエンス研究所に移動し、9 月 14 日に行う研究所ツアーの打合せを行った。5 日目は、

ナンヤンポリテックの訪問で引率し、ナンヤンポリテックの研究室見学を行った。食品学、栄養学、航空宇宙、電気、3D プリント、ロボットコンテストのロボットの見学、化学工学プラントの見学を行った。3月に宇部高専に来たナンヤンポリテックの学生との交流の機会があった。

語学研修のプログラムの内容

語学研修のプログラムは、前半の2週間と後半の2週間で異なったテーマで議論し発表を行った。後半の2週間は、Japanese companies in Singapore, Industries in Singapore, Religions in Singapore, Education in Singapore, Nature Reserves in Singapore, National Service in Singapore の6つのテーマでグループワークとプレゼンテーションを行った²⁾。

研修期間中、下記のように学外での活動が多くあり、シンガポールの文化に触れたりや人々と交流ができる楽しいプログラムとなった²⁾。

2 Sept (Fri): Bugis and Kampong Glam Scavenger Hunt

6 Sept (Tues): Volunteering at Willing Hearts Soup Kitchen

9 Sept (Fri): Farm visit and Sungei Buloh Wetland Reserve

12 Sept (Mon): Visit mosque for Hari Raya Haji

16 Sept (Fri): National Library tour, and workshop

17 Sept (Sat): Bukit Brown Cemetery tour (history, and landuse in Singapore)

19 Sept (Mon): Kinokuniya Store visit and tour

22 Sept (Thur): A*Star Fusion World visit and tour

この授業のアプローチ

- ・‘体を動かして学ぶ’→活動を通して学ぶ。
- ・自分について表現させる。
- ・暗記するだけでなく、理解し、コミュニケーションする。
- ・皆で活動をさせる。→チームプロジェクトで協力する、決まった答えのない問題を解決する。
- ・テキストからの勉強では不十分、実際の世界の状況から学ぶため、屋外活動を多く取り入れた。

学生と向き合う上での留意点

- ・第2外国語を使うのは非常にチャレンジングである。
- ・いつでも集中させる必要がある。学生は集中することを学ぶ必要がある。
- ・すべてのリスニングは活動に必要なリスニングである。→多くの作業はできない。さもないと散漫になってしまう。
- ・閑静な高級住宅地に宿舎がある。→高級住宅地とは違った地域への活動を取り扱う。しかし、広範囲に渡る活動は学生たちを消耗させてしまう。
- ・シンプルなチャレンジングなタスクを与える。→例えば、毎日の宿題など。

上手くいったこと

- ・学生は教室の外のさまざまな活動を楽しんだ。
- ・スポーツは教室の外で学生のことを知る良い活動である。
- ・スタートは大変であった。しかし徐々に学生と信頼関係を築くことができた。
- ・たくさんの通常とは違う宿題を与えた(シンガポールの中心地をめぐる、レポートを書かせた)。
- ・学生は‘聴衆を見て’‘コミュニケーションする’の意味を理解して、彼らのプレゼンテーションに応用した。
- ・学生は‘文化交流日’を主催して、たくさんのシンガポールの友達を作った。

上手くいかなかったこと。

- ・聴衆の前で自身を持って話をさせるのに時間がかかった。
- ・学生はまだ話す際に学生は緊張し、原稿に大きく依存した。
- ・学生はまだコメントや意見を言うことを躊躇している。
- ・第1週目にホームシックになった。

考察

- ・もしある程度の言語が流ちょうでなければ、アドリブや冗談をいったり、機知にとんだダジャレのみならず、シンプルな質問と答えでさえ、チャレンジングである。
- ・より忍耐が要求され、より多く質問し、よりよく聞く必要がある。
- ・時間と間を取って、学生が理解したことを確認する。
- ・紀伊国屋のマネージャーの河合さんがツアーを英語で実施したが、学生は非常に刺激された。

改善(今後のコース)

- ・学生のコメントを要求する。
- ・学生に友人と復習させる。
- ・練習の時間をよりよく使う→復習するように学生を動機づけて、一つのスキルに焦点を当て、残りのスキルも扱う。
- ・より多くのスラングとイディオムを教える→言語では、スラングとイディオムが必要である。
- ・英語を流ちょうに話すアジア人のモデルや例をもっと提供する。

早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所(WABIOS)とシンガポールポリテックジョイントラボ訪問

9月7日にナンヤンポリテックで研修を行っている専攻科生の引率で、WABIOS-SPのジョイントラボの宗慶太郎先生の研究室を訪問した。高価な機器を含め生化学、生物物理学の研究を行うのに必要な機器が一通り揃っている。その後、シンガポールポリテックのTechnology Development Centreのセンター長のDavid Chai先生の引率により、シンガポールポリテックのラボツアーを行った³⁾。

9月14日にナンヤンポリテクニクで研修を行っている専攻科生の引率で早稲田バイオサイエンスシンガポール研究所を訪問した²⁾。バイオイメージングや生物物理の研究室で、北口哲也先生は、機能的な蛍光バイオプローブの研究を行っている。鈴木団先生は、シンガポール国立大学と共同でカプトムシの動きを人工的に制御する研究などを行っている。最先端の研究に触れる良い機会となった。

ジカ熱の発生

研修期間中に外務省危険情報レベル1となった。ジカ熱の影響は妊婦が感染すると小頭症の子供が生まれるというリスク、蚊を介しての感染はあるが、人から人への感染はないと言われている。風邪に似た症状で発熱をともなう。

校長、国際交流室長、事務部長、総務課長、学生課長、連携係を交えて対応を協議した結果、機構の対応に従って、保護者への了解を取ってプログラムを継続して実施した。重篤な感染など研修参加者の要請があれば、教員が現地に赴くような体制を整えた。継続実施にあたって、日々の安否に加えて健康状態の報告を義務付け、流行地域へ行くことの禁止、蚊に対する防衛策の実施を指導した。高熱が発生した場合は、海外旅行保険にある電話番号に電話してキャッシュフリーで受信できる医療機関を受診するように指導した。期間中、せきなど風邪の症状を示すものがあったが、ジカ熱感染が疑われる症状がでることはなかった。

今後、宇部高専は、シンガポール、マレーシアへの海外研修を行っていく上で、ジカ熱発生の対応を強化する必要がある。国際交流室内で、ジカ熱が発生し入院患者が出た場合の対応のテーブル訓練を実施した⁴⁾。情報収集・発信を担当する広報班、旅行代理店・外務省・JCSOS（危機管理マネジメントコンサルタント）との連絡を行う渉外班、家族との連絡を行う家族班、学内の会場・体制の整備を行う総務班、現地に赴く派遣班を組織し、対応にあたることにした。引率教員が不在の場合、入院患者が出た場合は、患者と研修中の学生の対応、現地の情報収集のため、現地に教員を派遣する必要がある。また、初動の対応をいかにスムーズに行うかが課題であることがわかった。

帰国後の指導

6回行うイングリッシュカフェへの2回以上の出席を義務付けた。多くの学生が3回以上の参加をして発表の完成度を挙げた、イングリッシュカフェでは、原先生が中心となって学生の発表の指導に当たった。1名のネイティブスピーカーの先生の他に、協定校のナンヤンポリテクニクから10月から2か月半の間、研修で来ている4名の学生にも参加してもらい彼らのプレゼンテーションを指導してもらった²⁾。

英語の原稿を先生とナンヤンポリテクニクの学生に添削してもらおう。さらに、ネイティブスピーカーの先生に正し

い発音をスマホなどに録音してもらい、それを利用して学生たちは猛練習を行った。学生たちには原稿を暗記して発表するように指導した。成果報告会では、Japanese companies in Singapore, Industries in Singapore, Religions in Singapore, Education in Singapore, Nature Reserves in Singapore, National Service in Singaporeの6つの発表があった⁵⁾。練習の成果があり、成果報告会では、飛躍的にプレゼンテーションの質が向上した。本校校長は好評の中で、「原先生の指導によりプレゼンテーションの向上がみられた。素晴らしい報告会に参加できた良かった」との講評があった。

アンケートの結果⁵⁾

68%の学生が大変満足と答え、32%の人がやや満足と答えた。非常に満足の理由は、英語が学べたこと、文化交流ができた、観光ができた、外国人と話す機会が多くあった、貴重な体験ができて楽しかったなどの回答があった。やや満足の理由は、もう少し自由時間が欲しかった、クラスに日本人しかいなかったという意見があった。

研修内容について、87.5%の人が有意義と答え、12.5%の人がやや有意義と答えた。とても有意義と答えた理由は、自己主張ができた、アクティブなことが多かった、プレゼンやスピーチなどの力がついた、英語での授業、日本で味わうことのできないことができたという意見があった。

87.5%の人が来年もこの研修があれば同級生や後輩に薦めると回答した。

自由回答の意見では、担当の先生が、参加しやすい、楽しめる授業を作り、たくさん話す機会があったため、多くの学生が積極的に授業に参加できた。

英語でのコミュニケーションをとる大変さ、楽しさ、必要性を感じて、英語の学習意欲が向上した。

外国人と接したこと、シンガポールの友達ができたとを通して、異文化に対する気持ちの変化が見られた。

ブギズは、サルタンモスク、観音寺など宗教的な建物が多い地域で、ブギズでの研修が最も多文化・多宗教を感じることができた。ナンヤンポリテクニク内を見学したが、その設備や研究内容が印象に残った。シンガポールは、多くの文化や民族と触れることができるという意見があった。

今後の展望

2017年度の語学研修のプログラムは、シンガポールポリテクニクの語学研修、オーストラリアのニューカッスル大学の語学研修^{6),7)}、マラ工科大学の語学研修、永進専門大学の語学研修、文藻外語大学の中国語研修を実施する予定である。シンガポールポリテクニクの語学研修は学生の間で特に人気がある。今年度の実績をもとにJASSOの奨学金(3年生以上が対象)の申請を行っている。1-5年生が参加可能な4

週間のプログラムを今後も継続して実施していきたい。語学研修の中に引き続きナンヤンポリテクニク、シンガポールポリテクニク、WABIOS の研究所訪問を取り入れ、グローバルマインドと同時に技術者マインドの育成を図っていききたい。

参考文献

- 1) 宇部高専 学校便り 91 号 pp. 14-15 2016 年 6 月 1 日
- 2) 三留規誉ほか: 宇部高専研究報告集, 63 号 pp. 27-32 2017 年 3 月
- 3) 宇部高専 学校便り 92 号 p10 2016 年 11 月 1 日
- 4) H28 年度宇部高専国際交流室テーブル訓練報告 2016 年 11 月 28 日
- 5) 2016 年シンガポールポリテクニク語学研修報告書
- 6) 澤泰人: 宇部高専研究報告 第 52 号 pp. 77-82 2006 年 3 月
- 7) 澤泰人: 宇部高専研究報告 第 53 号 pp. 65-71 2007 年 3 月